

4—40

1 (表紙)

「寛政五丑四月

鳥取出府諸事控

大谷九右衛門」

3 2 (白紙)

廿二日

一 朝六ツ時^ニ米子出立、由良より日暮漸夜ル八ツ時^ニ長瀬へ至着一宿之事、翌朝六ツ時長瀬出立、晚方^ニ鳥取本町福松屋喜兵衛宅到着之事

廿四日

一 双方勤先之音物取調私義少し氣分不相勝候付
藤吉を名代^ニして挨拶^ニ廻らせ作物家来^ニ荷セ
目録之通土産之物差出し申事、夕方より
三浦幸右衛門殿私義致推參、夜半時分迄何角之
物語寛々いたし万端頼入候處明朝景山氏^ニ
御出被下候筈^ニ御座候并今夕鉄山方之袖控失念
致持參不申^ニ付明朝為持遣度候段申罷帰候
今夕松村氏^ニも參度存候處三浦^ニ而長座仕候
罷帰申候事

4

廿五日之夕

一 松村氏へ罷出候處御逢被下何角之趣逐一御頼
申上置、尚又未出府之義表向相済不申候間御老役方へ
御内々御挨拶被仰可被下様御頼申上候義御承知之事
夫より牛尾九郎右衛門様へ罷出候處御頭痛^ニ而御逢不相成
重^ニ可參^ニ旨被仰候事

同日

一 後藤権平殿方見廻申候處途中^ニ而^ニ出逢私義留守へ
見廻^ヘ申事

廿五日

一 枇村氏より別紙之御手紙被遣即刻御老役三家并
寺嶋顕功寺へ音物遣置私義跡より直ニ
御下屋敷辺へ罷出候處九郎右衛門様源藏様江者
掛御目御頼申上置候事尤源藏様より被仰聞候処
何分勘定所懸りヘ兎角相歎重々あの方より
相済候趣申来候様取計可申旨被仰渡候事

5

廿七日

一 両艘之欠銀上納藤吉御勘定場へ差出候事、尤
四ヶ目拝借證文相添御立用被仰付候事、併
證文ニ御望之御文作被遣候ニ付認直し明日差出候事

晦日

一 東市右衛門様今日被出候處御逢被遣右之願之趣逐一
申上候處何分御勘定所へ相願何之方より私義
出府仕相歎候ニ付ケ様ニ被仰付候ニ又々
景山様より御手紙ニ而も來り候様被仰候間
幾重も奉畏候と申上置候事

五月二日

一 村尾官平殿へ致推參候處掛御目委細之趣申
入候處先達ニ而景山様より牛尾上村東右御三家へ
其品被申入候間いつれ之道ニも差別相付キ候趣
あ之方より之取計ならてハ相済不申旨被申候事

一 田中文蔵殿よりも右同様之事内外共懇ニ
物語被申候事幾重も御下屋敷之方々より此義
御持出有之候方可然之旨被申候事

一 市右衛門様江罷出右之趣申上候趣尤ニ候得共元來
私出府在之候間是非此分御勘定頭様ニ又々
□□惣共申來候様取計置可然候而被仰聞候事
尤表向之義ハ寺嶋金左衛門様へ申達候様ニど
被仰付候事

一 金左衛門様ヘ先達ニ而より之趣逐一申上、尚又右之趣

6

2

一々申上候處御呑込之由其品被仰上被下候
様ニ被仰聞候事

7

五月十五日

一 金左衛門様被出候處被仰候ニ而扱右之趣段々及評義御勘定頭へ懸渡之様子申談見候得者最初景山様より來書懇之□付米子へ被仰遣依之出府之事ニ候間此義幾重もあの方へ申立可然之旨被仰聞ニ付私より申上候義ハ被仰被聞候趣奉畏候、併先頃已來御存□□御勘定懸御役人衆へ有之趣ハ段々申立候得者為之先達而御文通有之事候、則御屋敷より此義ハ御持出候□遣候處其跡筋之被申候得者御指図を以又々今可□此段申上其上御勘定所御役人衆之御返答之趣罷出申上度奉存候尚又其品承度候、金左衛門様よりも被仰候事

8

十九日

一 金左衛門様より呼被遣候得共私義ハ瘤物出難參ニ付名代ニ藤吉を出し候處私罷出候ハ、御談し被成候由又々翌十日ニ少し氣分候ハ、押而參候ハ、其品御談被成候之由被仰遣候ニ付夕方迄何卒押而罷出度之旨申上置、尚又藤吉を以挨拶ニ申上候處藤吉へ金左衛門様より被仰渡候趣御勘定頭様より右三百石之上納是非當月中ニ差出可申旨左なくてハ御振取様江も御達ニ被成度候旨并大坂ニ滯船之儀相對ニ売払可申之由、則支配人より及相談買手其品大坂御役人衆へ不苦哉と相伺之金左衛門依之

御差留置被為成候由大坂より申來候ニ付是又御勘定頭より売払申候ハ、代銀之儀ハ相求ル船有之候迄御役所へ差上置申候旨被仰渡候様ニど之事、其段具ニ金左衛門様より私出勤之上被仰候ニ付私より申候ハ

9

3

藤吉へ被仰渡候趣逐一承知候、右^ニ付御願
申上度筋御座候得共右仕合候、且又手船
大坂表^{ニ而}直段^ニ懸ケ申渡候、勿論仕掛取度
其段先達^而申上置候、左候得者いつれ^ニも望手
有之候節ハ代り船無之^而も見セ申事^{江有内}
無左候^而ハ所詮取捌方難相成、依之いつれは望ミ
申候付定^而付直段等為致候もの^ニ奉存候
然レ共代り船無之^而も売払申度奉存候得^者

10

素り御伺申上御指図次第可仕もの^ニ御座候
此等之趣ハ氣遣成ル事毛頭無御座候、とふやら
余り御さゝひ過し御事と奉存候と申上候事
并金左衛門様より被仰候趣此度出府之事^ニ
候得共格別之御頼之筋も有之候趣^ニ被申相聞候間
何分米子手之身分候間一先ツ帰宅之上米子
御役所へ願書差出可然之旨被仰候、私よりも
御答申上候^ニハ被仰渡候趣奉畏候得共格別之
御願申上候□□之儀^ニも無御座候、則右御用船之
儀^ニ付出府儀仕候其段御願申上度之由御聞届之上^{ニ而}
罷出候義願書も御取上ヶ不被仰付罷帰米子にて
御役所へ申上候^ニも何之為罷帰候哉と被仰候^而も
御答可申上様も無御座候、尤罷出候節右上納米

11

御願申上御聞届無御座候節ハケ様候之願書^{ニ而}も
指出度候段申上候義も毛頭無御座方畢竟右^ニ
付て之願意^ニ御座候間不苦候□早思召候ハ、可然様^ニ
奉願候と申上候事いづれ之道^ニも是ハ帰宅候上御願申上
可然申候御事、何様追^而御返答申上度と申上候事
扱金左衛門様被仰候趣、彼是と申上身為不宜相
成候^而も□□致候者兎角に問柄同役中^ニも相談
之上宜可申上候旨御添心被成候^ニ付難有仕合奉存候
私身分之儀勿論覚悟之儀元來御役人中之御取計^{ニ而}
御用船之儀も難勤り相成り申候、所詮此度纔之日數
御猶予被仰付候由近も行末只今之趣^{ニ而}ハ御用も
難相勤奉存候^ニ付此度乍恐御用船相勤申上候段

12

御断り申上、拝借米上納候儀ハ私家錄を以無滯年々ニ
相納申上度段御願申上度奉存候、尤御闇届被仰付

候ハヽ大勢之家族及渴命候間格別之御憐愍を以如何様も
身命取続候様可被仰付候旨御願申上度奉存候并
御上様へも御願申上度筋も御座候、乍併御時節柄
二付幾重御願申上候而及渴命候而も不苦思召
被為御捨置候ハヽ無拠義ニ御座候間乍恐

公方様江御願申上度義も御座候間願意之趣

太守様より御指出被為遊被為下候哉ニ又々御恵ニ而も被仰旨
仰付候哉、両品共ニ御取上ケ無御座候得ハ無余儀
江府へ直訴ヘニ罷出候より外ハ致方も無御座候
奉恐入候義ニ御座候、先達而船願候付段々御苦勞ニ
罷成、其上右等之重キ御訴詔申上度趣一重々々

13

御役害ニ被成候儀是のミ御厚恩忘却ニ相当り恐入
奉存候何様追而参上以御答申上度申罷帰候事

廿三日

一 金左衛門様へ罷出仰ニ隨ひ一先ツ罷帰米子御役所江
願書指出申上度、尤直ニ又々出府仕度其節ハ御苦勞ニ
被成下様ニと帰宅之御受申上候事

同日

一 御老役御三家へも罷出此度御願申上候趣委細之儀ハ
金左衛門様より被仰渡候趣ニ隨ひ御指図を以帰宅仕候
尤願書ハ米子御役所へ指出候様被仰渡其段
御請申上候就夫御添書之返翰相願申上候、來ル廿六日ニ
爰許出立仕候と申上置候事源藏様へ御大病ニ而
不掛御目候事

廿五日

一 今日御添書返翰受取申候事

14

廿五日

一 御勘定所御役筋江も罷出此度御願申上度

義^ニ付出府仕候處願之趣^ニ付一先ツ帰宅之上

米子御役所へ願書指出候様被仰渡候^ニ付無拋

一寸罷帰申候、此段何角御挨拶旁伺公奉候申上置

罷帰候事

廿五日

一 今朝出立可致候處昨日勤先キ相残申候付

無拋逗留いたし木村治郎左衛門様國留作左衛門様
始めて出入いたし掛御用申候、尤内願之筋有之^ニ付
田中曾兵衛様鈴木順兵衛様右候御兩人へ召出申候事

御願之筋書顕し不申候事

15
(白紙)

16
一 青屋木綿二疋

17
一 上之鰹節 壱連

國留作左衛門様

17
一 青屋木綿二反

太田權右衛門様

鰹節 武連

一 右同断 二

景山源左衛門様

一 青屋木綿一反

柏木直左衛門様

鰹節 一連

御不幸有之付御菓子遣し武五匁

18
一 右同断 一 河鳶利左衛門様

田中文藏様

一 右同断 一 村尾官平様

武連

一 反

木綿一反二袋

一 主兩串

千海老 壱籠

小代嘉太夫様

一 右同断

後藤権平様

19

一 青屋木綿一反

間宮仙藏様

干ゑひ 壱籠
右同断 一反

三浦幸右衛門様

干ゑひ 壱籠
鰯節式連計

矢野笠右衛門様

ぐりわた壹袋百五十目

山崎助右衛門様

干ゑひ 壱籠

坂根長兵衛様

くりわた二百
千ゑひ

牛尾五郎右衛門様

青屋木綿一反

上村源藏様

鰯節 壱連

東市右衛門様

右同断

寺嶋金左衛門様

ぐりわた一袋式百目

牛尾九郎右衛門様

鰯節 壱連

田川庄太夫様

青屋木綿一反

枚村源左衛門様

千ゑひ 一籠

大島久左衛門様

ぐりわた式袋三百目

顕功寺様

ぐりわた壹袋二百目

平野屋八郎右衛門様

えひ壹籠

林新兵衛様

青屋木綿一反

砂川源五右衛門様

鰯節 武連

鰯節 壱連

ぐりわた壹袋二百目

大島久左衛門様

千ゑひ 壱籠

大島久左衛門様

ぐりわた 同断

大島久左衛門様

鰯節 壱連

砂川源五右衛門様

ぐりわた壹袋二百目

砂川源五右衛門様

鰯節 壱連

砂川源五右衛門様

右同断

砂川源五右衛門様

20

一 青屋木綿一反

砂川源五右衛門様

鰯節 壱連

砂川源五右衛門様

右同断

砂川源五右衛門様

21

一 青屋木綿一反

砂川源五右衛門様

鰯節 壱連

砂川源五右衛門様

右同断

砂川源五右衛門様

22

一 青屋木綿一反

砂川源五右衛門様

鰯節 壱連

砂川源五右衛門様

右同断

砂川源五右衛門様

木綿十式反

繩綿式べ七百五拾目

鰹節百五十節

干海老人軒分

代 代 代 代 代

23

右之通之外勤ハ願之品ニ寄相伺可申事

御元ベ様へ音物御受納無之候

一 灘廻役人宿ヘ何そ壹品宛ニ而通懸之節立寄候事

一 鳥取御老役方小頭三人ヘハ壹包宛差出候事

(式包ニ

ゑひ壹籠

一 内願之品ニ寄候得者御出入被仰付候

御老中様方之御家老衆ヘハ相伺候義も左御座候
其外御運上懸り御郡代様方ヘも相勤候事
此義何卒祈申上候事

24

一 ぐりわた二百め一 田中曾兵衛様

生鯛二尾

五月十七日

一 ぐりわた三百目二 情教寺 使藤吉ニ而

初穂十五匁

一 带壹筋

坂井六兵衛様

一 鰹壹連

神田七郎右衛門様

一 右同断

使

鈴木順兵衛様

一 ぐりわた

鰹節

一 川越袴地一下 代四十五匁

鰹節 一連 同四匁五分

木村治郎左衛門様江

25

十八日

一 五拾目六分

三浦幸右衛門殿より五左衛門方ヘ
安四郎への分木綿四疋

代天満屋平右衛門へ相渡ス

同日

一 拾六匁五分

木綿壹疋代河崎者へ相渡候

内半手前^ニ入用也 鳥取遣被成候

同日

一 拾九匁

青屋木綿式反代渡候
東之油壳^ニ渡候

廿日

一 廿四匁 干海老

勤先土産塩肴代

同日

四ペ目

一 三十三匁七分五厘

くりわた壱ペ五百目
代長左衛門へ相渡候「」

「」

26

同日

一 武匁

大地谷紙四十枚
わた紙袋

同日

一 廿三匁七分五厘

くりわた壱ペ兼目
代長左衛門へ相渡候

同日

一 拾八匁

くりわた八百目
但内三百目

何右衛門へ渡候

手前入用^ニ取

同日

一 三匁五分

こま／＼買物荷仕廻^ニ付
何角調候もの也

廿一日

一 五匁

入用紙類代

27

一日置氏より御頼之趣岡本利右衛門様より参り候もの有之候間

鳥取罷越候ハヽ何れ者以日置氏へ被遣候もの御渡候
申上候得者相渡候事

一 松本より被頼候もの惣兵衛油巻本^者鼻紙壱匁か
わらひ壱匁か

一 四匁五分 松本氏あつらへもの也

百五拾貳匁

和田屋平治郎方へ渡ス

一 三
同
三匁匁

ろうそく代

一 一匁五分
廿六日

下厚階太壹帖

一 一匁五分
廿七日

家来太郎治貸スさとう代

一 三匁匁
同

ひん付油元結代

30 (白紙)

廿七日

一 拾壹匁七分四文

藤吉へ相渡右ハ道中銀
不足^二付相渡ス也參懸
之分也福松屋^{二而}渡ス

一 拾匁匁
晦日

ひん付油五本代使伊兵衛^{二而}
米子へ遣候

一 壱匁五分
同

白箸式百膳代
元結代宿より取

一 壱匁匁
同

下階太壹帖米子行

一 壱匁五分
同

藤吉へ相渡ス右ハ切手代
不足^二付取替置申事

一 貳百廿三匁匁
同

米子宿元へ遣ス總見寺へ
遣候分飛脚伊兵衛へ相渡候

一 拾三匁匁
同

「」
入用候

干菓子代

32

五月一日

一 五匁匁
三日

柏木へ悟^二遣菓子代

一 六匁

牛尾上村東右小頭中指代
式匁宛之分

三日

宿福松屋へ渡置是ハ
節句前ニ候間先宿拵之

一百目

先渡し度也藤吉へ

八日

宿主喜兵衛へ相渡候

一 八拾式匁六分

和田屋平治郎方へ

此分ニ百目渡し置

帷子一反麻袴一反代也

六十め

廿式匁六分

相渡候

一 式匁

遣着宿代ニ相渡候

一 壱匁

小拵候也

一 十八匁

下男太郎治へ帷子代□貸ニ
□□之由也

一 四匁

客來入用也

33

十二日

一 七匁三分

向之八百屋へ着代ニテ
相渡ス

封箱書之代相渡ス

平八被參候節菓子之代
肴之代客來之代

右同断

一 七匁四分

家来太郎治返しニ付御来屋
人足賃渡ス

右同断道中

諸入用ニ渡ス

廿日

一 十五匁

十九日

一 壱匁

右同断

一 五匁
一 三匁壹分
上源様へ見廻り遣ス串鮑代
上下壹具仕立貲

3 4
一 式匁
一 甘三日
脇差柄頭一ツ代

一 甘三匁
同
藤吉こま／＼買物代渡ス

一 三拾匁五分
廿五日
脇差壹腰仕立

一 百卅匁式分九厘
廿六日之朝
宿福松屋喜兵衛

一 百廿四匁三分五厘
和田屋平治郎方より
買物代渡ス

一 三匁
同
茂三郎迄包ム

一 四匁
一 壱匁五分
廿六日
もの書方へ包ム
酒肴代

一 甘匁
中村屋儀兵衛用立